

様式【学校評価資料】

阿曾小学校

経営目標	具体的計画	令和6年度の達成基準	自己評価(中間)			自己評価(最終)			学校関係者評価	
			達成状況	評価	改善策	達成状況	評価	改善策	自己評価の適切さ	
1 学 び プ ロ ジ ェ ク ト	GIGA/パソコンの有効活用による個別最適な学びができる児童の育成を図る。そのために、全教職員による校内研修とミニ研修会でGIGA/パソコンの活用を深めたり、広げたりする。	・10月に学校情報化認定校を申請して、認定してもらう。 ・「毎日パソコンを授業で使っている」という児童アンケートと、「毎日パソコンを利用して個別最適な学びを意識している」という職員アンケートで、児童と職員の割合が、 A:80%以上 B:75%～80%未満 C:70%～75%未満 D:70%未満	・学校情報化認定校への申請に向けて、情報を収集したり、外部講師を招いて研修をしたりと、指導に生かせるような取組を積み重ねている。 ・毎日パソコンを授業で使っているという職員アンケートは83.4％である。しかし、児童アンケートでの肯定的な回答は69％で、昨年度よりは高まっているが、本校で設定した達成基準には達成していない。	B C	・今後も引き続き情報を収集したり、研修を重ねたりしながら、指導に生かせるようにしていく。合わせて、個別最適な学びについての研修を行い、取組を加速していく。 ・授業での使用は、学級によりバラツキがあるため、全体としては、達成基準が低くなってしまった。GIGA/パソコンの必要性と、具体的な使用場面について、研修をすることで、意識の向上を図る必要がある。またミニ研修をもっと気軽にすることで、気軽に取り組めるような雰囲気を高めていく。	・校内研修等を通して、教師のGIGA端末の利用促進を計ることができ、それに伴い、児童のGIGA端末活用も伸び、学校情報科認定も承認された。 ・「毎日授業でパソコンを利用しているか」の質問に対する肯定的な解答は、児童91.9%、職員87.5%であった。「毎日パソコンを利用して個別最適な学びを意識している」の質問に対する肯定的な解答は85.7%。	A A	・日々の積み重ねが功を奏し、10月に学校情報化認定校を申請して、認定された。 ・「毎日パソコンを授業で使っている」というアンケートと、「毎日パソコンを利用して個別最適な学びを意識している」という職員アンケートで、児童と職員の割合が前期と比べて伸びている。パソコンの有効活用の意識が職員と児童ともに高まったためであると考察される。取組を継続したい。	【GIGA/パソコンの有効活用による個別最適な学びができる児童の育成】 ○自己評価は適切である。 ・GIGA/パソコンの使用率が高くなったことは分かるが、次のステップとして「GIGA/パソコンを使って考えが深まったか」「話し合いが深まったか」ということを検証する必要がある。	
	AZOノート・GIGA端末活用による家庭学習の充実を図る。そのために、AZOノート展覧会を3月を除く奇数月に実施し、AZOノートGIGA展覧会を6月、10月、12月、2月に実施する。	「AZOノート展覧会やAZOノートGIGA展覧会等を通して、進んでAZOノートに取り組んでいる」という児童と、「子どもは宿題や自主学習などの家庭学習をする習慣が身についてきていますか」という保護者の割合が、 A:90%以上 B:80%～90%未満 C:70%～80%未満 D:70%未満	・進んでAZOノートに取り組んでいるという児童の肯定的な回答は90.3％であり、家庭学習をする習慣で肯定的な保護者の回答は、73.1％であった。さらに、家庭学習の時間(学年×10+10)については、肯定的な保護者の回答は66.3％となっている。ちなみに、児童の肯定的な回答は84％となっている。	 C	・友達ノートを見合うAZOノート展覧会は、児童の家庭学習意欲を高めるのに有効であった。今後、高まっている学習意欲のよさを家庭に伝えるとともに、各家庭の協力を得ながらより多くの児童が学習習慣として定着するためにGIGA/パソコンの有効活用を図っていく。	・保護者の「子どもは宿題や自主学習などの家庭学習をする習慣が身についてきていますか」の肯定的な解答78.2%。児童の学年の指定した時間に対して肯定的な解答が90.1%で、保護者の肯定的な解答は71.0%。AZOノートを利用した自習学習に関する肯定的な児童の解答は90.8%であった。	 B	・「AZOノート展覧会やAZOノートGIGA展覧会等を通して、進んでAZOノートに取り組んでいる」という児童の肯定的な解答は90%を超えている。しかし、「家に帰って学年の指定時間勉強しましたか」の児童と保護者の肯定的な解答は、約20%の開きがある。なぜこうした差が出るのかを考察すると、保護者の見ている場での学習が少ない。保護者にはそれほど学習しているようにうつらないなどの様々な要因が考えられる。親子で学ぶ場の工夫など、新たな取り組みを模索する必要があるかも知れない。	【AZOノート・GIGA端末活用による家庭学習の充実】 ○自己評価は適切である。 ・AZOノートの取組を頑張っている子どもの表彰や展覧会は意欲付けになっている。また、展覧会を開催することで何に取り組めばよいか分らない子どもにとっては効果的である。実際に孫のAZOノートを見ると以前に比べ、内容が深まっていると感じる。 ・GIGA端末を親子で使って取り組むような家庭学習に取り組ませれば、保護者も子どもの家庭学習に関心をもつことができるようになるのではないかと。	
2 心 プ ロ ジ ェ ク ト	心が通うあいさつや、時と場に応じた相手を思いやる言葉遣いができる児童の育成を図るために次のことに取り組む。 ・あいさつ運動 ・品格教育と運動させた指導	同内容項目のアンケートで児童と職員が意識して取り組んだ割合が、 A:80%以上 B:75%～80%未満 C:70%～75%未満 D:70%未満	・児童・職員・保護者におけるいずれの関係するアンケート項目も80%以上が肯定的な回答が得られた。 ・どの学年も設定している計画にしっかりと取り組むことができると言える。そのため、他の常時活動に目を向けて、新たな計画を設定し、児童の育成に取り組むことが求められると考える。	A	・今後も引き続きA評価が続くように取り組んでいきたい。 ・2学期から、児童の活動の質を高めるために以下の2点の計画を追加する。 ①阿曾流自問掃除について、児童が自分のめあてを設定するように指導する。 ②主に委員会活動としてくそろえの点検を行う。	・児童アンケート「相手に聞こえる声であいさつできる」に対する肯定的な回答は5.2ポイント上がり(2学期末比)、92.8%	A	・今後も引き続きあいさつ運動や品格教育と運動させた週の取組を継続していきたい。	【心が通うあいさつや時と場に応じた相手を思いやる言葉遣いができる児童を育てる】 ○自己評価は適切である。 ・最近、正門付近に立って登校した子ども達が大きな声であいさつができている。阿曾の子どもの挨拶の声が小さいと思っていたが、そうではないことがよく分かった。 ・学校によっては、高学年の子どもがあいさつ運動をしているところもある。高学年が自主的にあいさつできるようになると効果が期待できる。 ・品格教育については、学校だけではなく地域全体で取り組んでみてはどうか。来年度からスタートするコミュニティ・スクールの取組としても適しているのではないかと。	
	自己肯定感の向上を図るために表彰や称讃を行う。			A	①阿曾流自問掃除について、児童が自分のめあてを設定するように指導する。 ②主に委員会活動としてくそろえの点検を行う。 ①は児童の自己有用感や友達と関わる力を高めるため、②は児童の意識と実態に乖離が認められ、客観的にはくそろえする程の心の余裕を持たせるために取り組む。	・「自分には良いところがあると思いますか」に対する肯定的な回答は3.5ポイント下がり、84.7% ・「5分前行動ができる」に対する肯定的な回答は、3.5ポイント上がり、92.7%	A	・アンケート実施前に良い所探し等の取り組みを実施している学期には「自己肯定感」に関する肯定的な回答が増えているように、直前の出来事が児童の心情やアンケート結果に直結している。忙しい12月のアンケート調査については、「実施時期が適当か」「こまめに毎月実施できればより良い」などという意見も出た。今後も、児童や教員による日常的な声かけや称讃を継続したり、SELの充実を各学級で図ったりしていく必要がある。	【自己肯定感の向上】 ○自己評価は適切である。 ・幼稚園にも自分に自信がない園児がいる。まわりの大人が忙しいのでなかなか難しいが、しっかりと子どもを見て認めてやる必要が必要かと思う。	
	心を整え、落ち着いた雰囲気の構えができるように、5分前行動の意識の向上を図るために、以下のことに取り組む。 ・SELの充実 ・予鈴の工夫			A		・担当教員も、5分前行動ができる児童が増えたことを実感している。掃除の日(月火金)の5分前チャイムや5年生の休み時間終了前の放送が非常に効果的であったように思う。		・次年度のいきいきカードの項目を見直しを行い「5分前行動」を追加することで、定期的に自身の行動をふり返る機会とする。 ・休み時間終了5分前に予鈴を鳴らすことを検討する。	A	・心を整え、落ち着いた雰囲気の構えができるように5分前行動の意識を高める。 ○自己評価は適切である。 ・5年生の児童が自主的に全校児童に5分前集合を呼びかけることに取り組んだことがすばらしい。 ・5分前行動についての改善方策として、「休み時間終了5分前に予鈴を入れる」とあるが、それは5分前行動とはいえないのではないかと。子どもが時計を見て自ら5分前に動くことができるようになる必要がある。
	教職員が連携し、協働しあえる職場づくりを推進するため、以下のことに取り組む ・リラックスタイムの場の設定 ・「助けてね」ボードの設置			同内容項目のアンケートで児童と職員が意識して取り組んだ割合が、 A:80%以上 B:75%以上～80%未満 C:70%以上～75%未満 D:70%未満	・リラックスタイムの場の設定によって連携・協働できているという肯定的な回答は93.3%であり、「助けてねボード」の活用に関しては、100%肯定的な回答であった。	A	・「助けてねボード」の掲示を職員室前面に移動することで、全職員が目に触れるようにした。頼みやすくなるように、具体例をwawaなどの掲示板に提示し、多くの職員が活用できるようにしていく。 ・リラックスタイムの場の設定については、話すメンバーが偏らないように小グループ化するなど、たくさんの先生と話す機会を設ける。また、初めに話題提示をすることで、リラックスしながら会話を楽しみ、日々の生活で困っていることが相談しやすくなるような雰囲気づくりに努める。	・リラックスタイムの場の設定によって連携・協働できているという肯定的な回答は100%であり、「助けてねボード」の活用に関しては、90%以上が肯定的な回答であった。	A	・「助けてねボード」の掲示を職員室入口に移動し、手伝える職員が分かるようにネームプレートを用意した。活用に関してはまだ少ないのが現状であるため、連携プロジェクトのメンバーが進んで活用していきたい。 ・リラックスタイムの場の設定については、話すメンバーが偏らないように、たくさんの先生と話す機会を設ける。5分程度の短い時間のため、グループではなくペアにするなど、様々なやり方を取り入れて阿曾小に合うやり方を見つけていきたい。
3 連 携 プ ロ ジ ェ ク ト	仲間と協力し、自発的・自治的に活動する態度の育成に取り組む ・各委員会主催の集会活動の実施 ・縦割り班遊びの開催	同内容項目のアンケートで児童と職員が意識して取り組んだ割合が、 A:80%以上 B:75%以上～80%未満 C:70%以上～75%未満 D:70%未満	・縦割り班遊びや集会で、みんなと協力したり仲良くしたりできているという児童の肯定的な回答は、94.6%。自分から進んで学校やクラスのために話し合うといった設問も87.3%と、全ての項目において80%以上の肯定的な回答が得られた。高学年は縦割り班遊びの企画、委員会活動、低中学年は代表委員会の話し合いと、それぞれの学年で自主的、自発的に取り組むことができる。	A	・集会活動については、各委員会の担当と連携しながら朝礼後に設ける等、確実にを行うことができるようにする。 ・11月の縦割り班遊びについては、班全員で遊びを決める機会を持ち、低学年を思いやる気持ちやみんな考えて楽しむといった「協力」する活動・時間に入力していきたい。	・縦割り班遊びや集会で、みんなと協力したり仲良くしたりできているという児童の肯定的な回答は、90%以上、自分から進んで学校やクラスのために話し合うといった設問も90%以上と、全ての項目に肯定的な回答が得られた。	A	・集会活動については、各委員会の担当と連携しながら朝礼後に設ける等、確実にを行うことができるようにする。 ・2月の縦割り班遊びについては、班全員で遊びを決め、低学年を思いやる気持ちやみんな考えて楽しむ活動を大切にしたい。	【仲間と協力し、自発的・自治的に活動する態度の育成】 ○自己評価は適切である。 ・5・6年生が1・2年生のサポートに行くのはよいが、やりすぎてしまうと1・2年生の自主性・自立性が育たなくなってしまうので、5・6年生の子ども達に、1・2年生もできることはさせるようにしながら支援するように事前に指導する必要がある。 ・幼稚園でも給食の準備等、自分たちの力で行えるようになっている。1年生のサポートをするのであれば、事前に6年生の子ども達が幼稚園に来て、園児がどれぐらいのことまでできてどんなことができないのかを見て理解する機会があってもよい。	
	地域人材による授業・行事支援・環境整備のため、以下のことに取り組む ・多目的室の環境整備 ・職員室、多目的室、教材室、教育相談室などの整理・整頓 ・学習支援ボランティア等と連携した環境整備	同内容項目のアンケートで職員の割合が、 A:80%以上 B:70%以上～80%未満 C:60%以上～70%未満 D:60%未満	・学校支援ボランティアなどと連携して、環境整備ができている93.3%。運動場、準備室や特別教室などの環境整備により利用しやすい環境になっている100%と肯定的回答が高く、学校の環境整備の進捗等については良好な状態であるとと言える。	A	・環境整備ができているかや働き方改革を意識しているかについて、否定的な回答があったので、どうすれば改善されるかについて職員の意見を聞き、今後の改善を進めていく。	・学校支援ボランティアなどと連携して、環境整備ができている90.9%。運動場、準備室や特別教室などの環境整備により、利用しやすい環境になっている100%と後期についても高い肯定的な回答が得られた。	A	・地元企業的外部人材を活用した環境整備を実施し、1年生の間仕切りの設置、自動放水栓の整備、保健室のカーテン設置など、普段できにくい所の整備ができた。また、年間を通して環境ボランティアの方々には、学校の環境整備を継続的に取り組んでいただいたので、利用しやすい状態を保てた。今後も地域と連携し地域の方々のお力をお借りできるように努める。	【地域人材による授業・行事支援・環境整備】 ○自己評価は適切である。 ・地域人材による支援の結果として、先生方の負担が減るのは分かるが、地域の人々が学校支援をしているのは、子ども達の環境を整えるためである。学校支援については、どちらかというと連携の取組になるのではないかと。来年度は、この項目については見直す必要がある。	
4 働 き 方 プ ロ ジ ェ ク ト	風通しのよい職場づくりの推進のために、退庁時刻の申告や時間外勤務削減に向けた意識改革を行う。	・退庁時刻や時間外勤務削減など、働き方改革を意識しているは88.3%が肯定的回答であった。否定的回答も11.7%あった。	A	・理想の1日のタイムスケジュールを考えた上で、定時退庁日を設定することで、ライフワークバランスの取れた日を生み出し、働き方改革に向けた意識改革と行動につなげていく。	・退庁時刻や時間外勤務削減など、働き方改革を意識しているは93.3%が肯定的回答であった。	A	・職場の同僚性を育むことを意図したコンプライアンス研修、月1回の定時退庁日の設定など、風通しの良い職場づくりに努めてきた。人員の限られる中、長時間勤務の改善に向けた取り組みを今後も継続していきたい。	○自己評価は適切である。		